

平成22年度 第1回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議資料

内閣府「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)H22.7」
報告書概要(抜粋)

I 調査目的

「ひきこもり」に該当する子ども・若者がどの程度存在し、どのような支援を必要としているのかを把握することで、地域支援ネットワークの形成を促進するための基礎資料とする。

II 調査対象

- 1 母集団：全国の市区町村に居住する満15歳から満39歳の者
- 2 標本数：5,000人

III 調査時期

平成22年2月18日～2月28日

IV 調査方法

調査員による訪問留置・訪問回収

V 有効回収数(率)

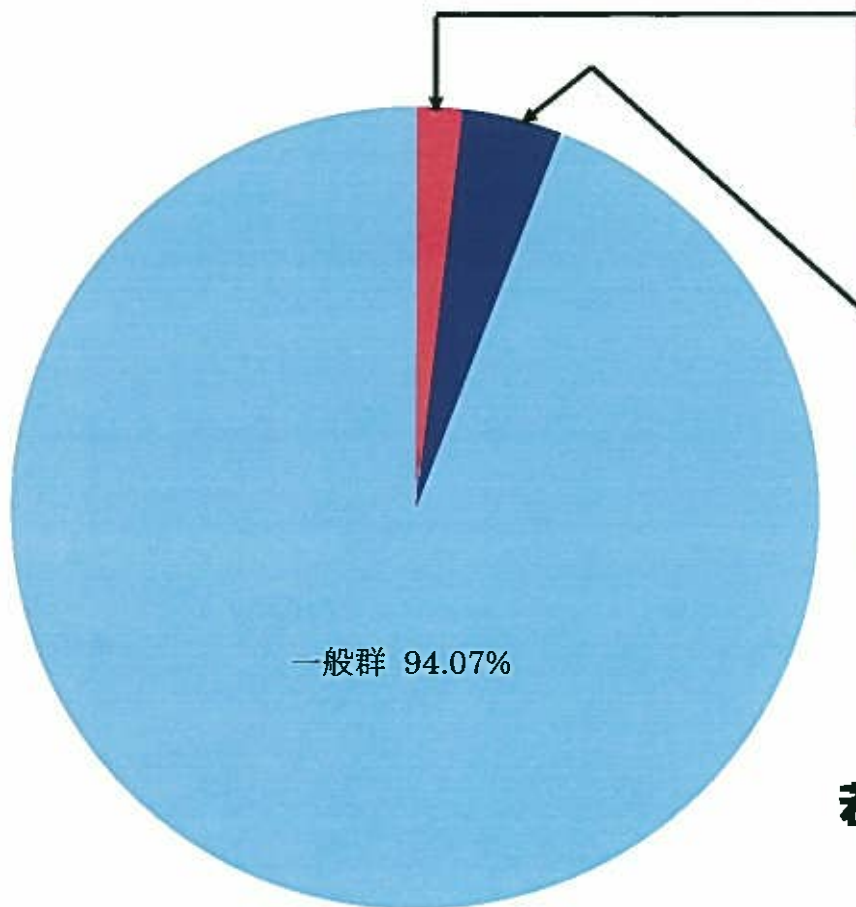
有効回収数(率)：3,287人(65.7%)

目 次

- 1 ひきこもり群, ひきこもり親和群の推計数
- 2 ひきこもり群, ひきこもり親和群の性別・年齢
- 3 小中学校時代の学校での経験
- 4 小中学校時代の家庭での経験
- 5 ひきこもりの状態になった年齢・きっかけ
- 6 ひきこもりの状態についての相談希望・機関
- 7 自分自身について(才能・会話)
- 8 自分自身について(感情・生活の干渉)
- 9 不安要素について
- 10 ふだんの生活態度(身の世話・就寝時間)
- 11 ふだんの生活態度(信頼できる人)
- 12 悩み事の相談相手

1 ひきこもり群、ひきこもり親和群の推計数

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7



【ひきこもり群】 (1.79%)

下記のいずれかの状態が6か月以上の者

- (1)趣味の用事の時だけ外出する
- (2)近所のコンビニなどには出かける
- (3)自室からは出るが、家からは出ない
- (4)自室からほとんど出ない

※狭義のひきこもり [(2)~(4)] 0.61% 準ひきこもり [(1)] 1.19%

【ひきこもり親和群】 (3.99%)

下記の4項目を、すべて「はい」又は1項目のみ「どちらかといえばはい」と答えた者から「ひきこもり群」を除いた者

- (5)家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- (6)自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- (7)嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- (8)理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

※推計数 全国 155万人

若年者のひきこもり群推計数

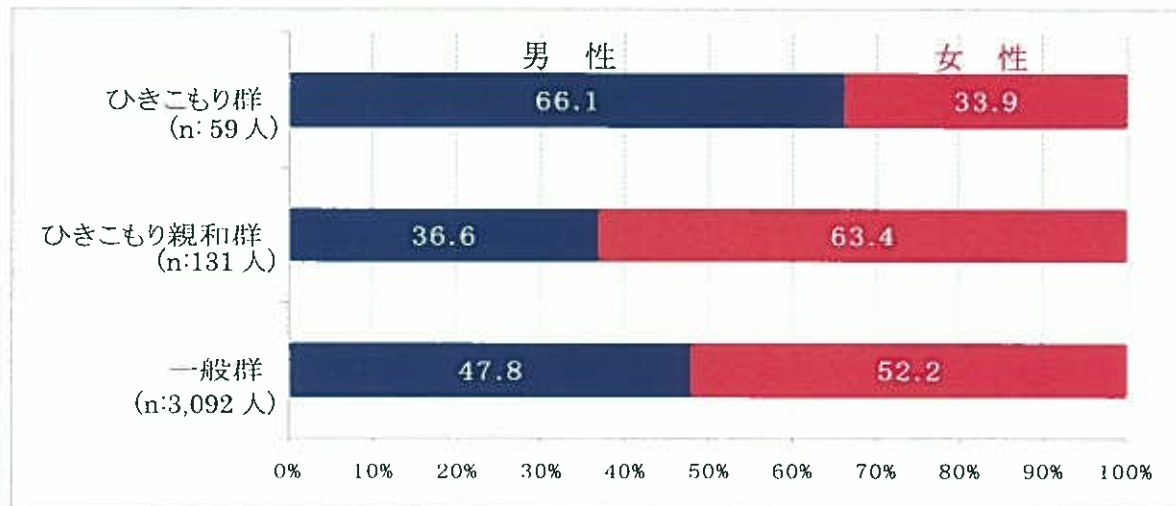
全国69万6千人

※全国推計数は、総務省「人口推計（2009年）」の15歳～39歳人口から推計

2 ひきこもり群、ひきこもり親和群の性別・年齢

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

【性別】（Q:あなたの性別をお答えください。）



- 回答者の性別は、ひきこもり群は男性が多く、ひきこもり親和群は女性が多い傾向が見られる。

【年齢】（Q:あなたの年齢をお答えください。）

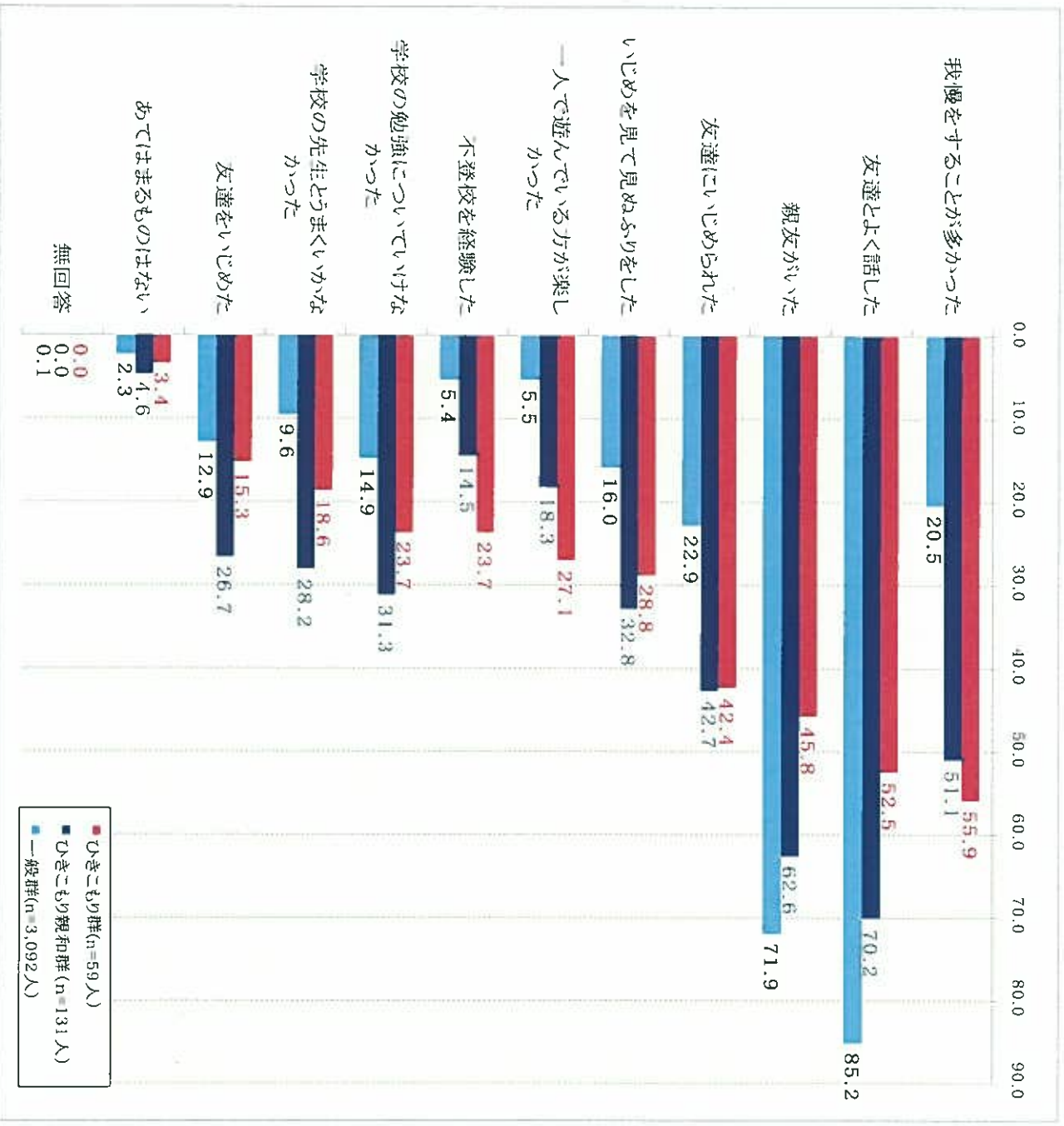


- 回答者の年齢は、ひきこもり親和群は10代を中心とした若い年齢層に多い傾向が見られる。

3 小中学校時代の学校での経験

出典：内閣府 「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」 H22.7

（Q：あなたは**小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験した**ことがありますか。
（複数回答））

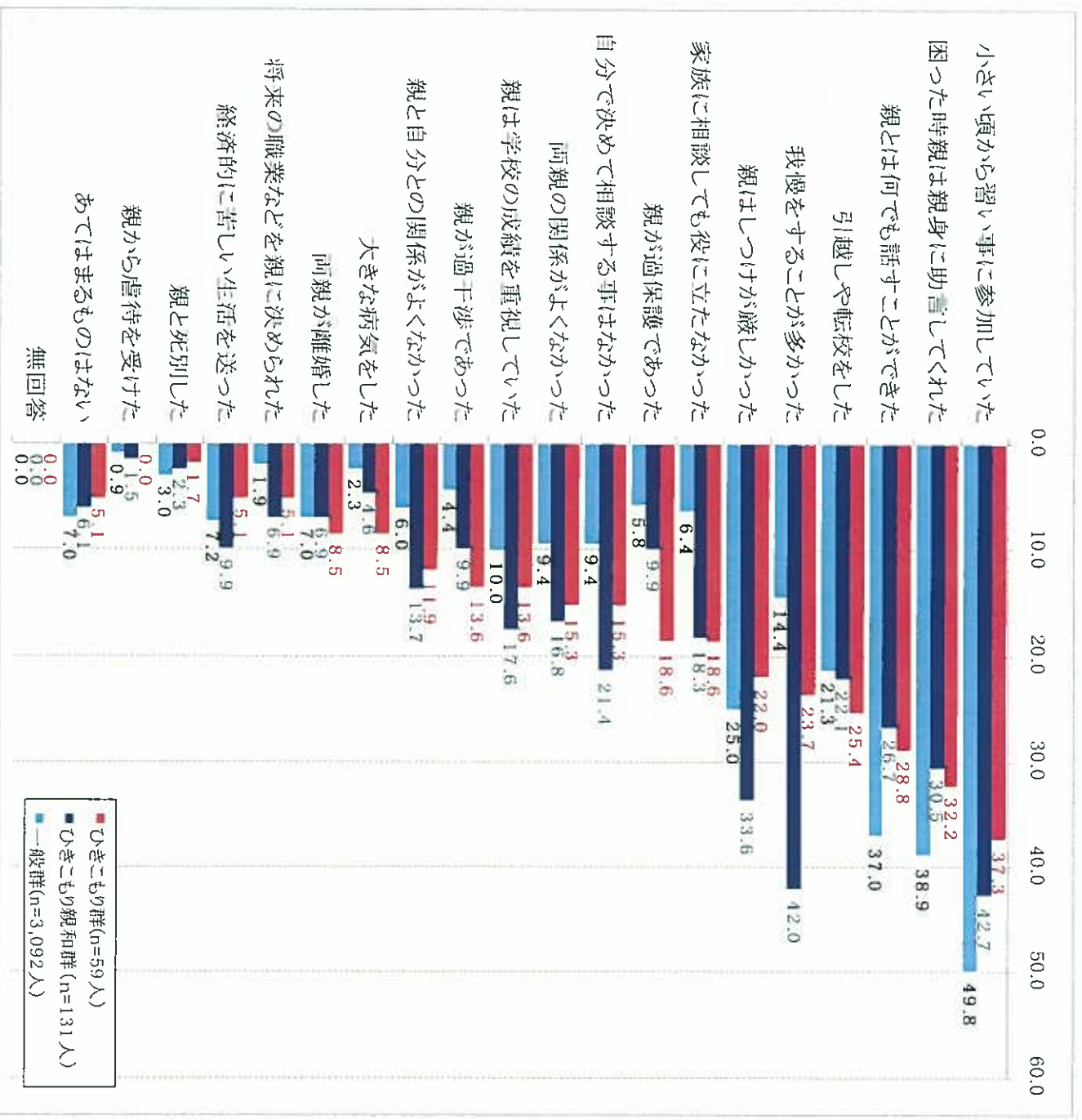


- ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較した場合、学校生活において「怪我をすることが多かった」「友達にいじめられた」「いじめを見て見ぬふりをした」「一人で遊んでいる方が楽しかった」「学校の先生とうまくいかなかった」が多い。
- さらに、ひきこもり群とひきこもり親和群は「友達とよく話した」や「親友がいた」が一般群よりも少ない。
- また、ひきこもり群とひきこもり親和群は「不登校を経験した」も多く、学校生活になじめなかった者が多いと考えられる。
- さらに、ひきこもり親和群では「学校の勉強についていけなかった」や「友達をいじめた」も多い。

4 小中学校時代の家庭での経験

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：あなたは**小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。**（複数回答））



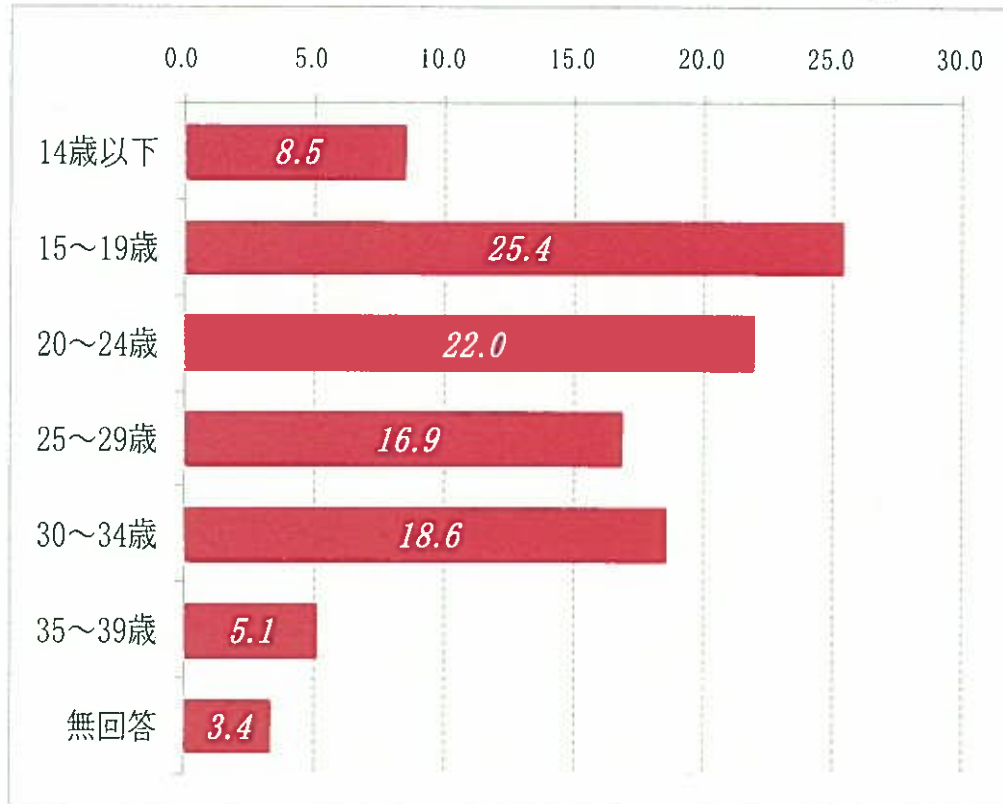
- ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群に比べて「親が過保護であった」や「大きな病気をした」が多い。
- ひきこもり親和群は「怪我をすることが多かった」「自分で決めて相談することはなかった」「両親の関係がよくなかった」「親は学校の成績を重視していた」「親と自分の関係がよくなかった」「将来の職業などを親に決められた」が多く、「親とは何でも話すことができた」が少ない。
- ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに「家族に相談しても役に立たなかった」や「親が過干渉であった」が一般群よりも多い。

5 ひきこもりの状態になった年齢・きっかけ

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

【ひきこもり群 59 人に対して】

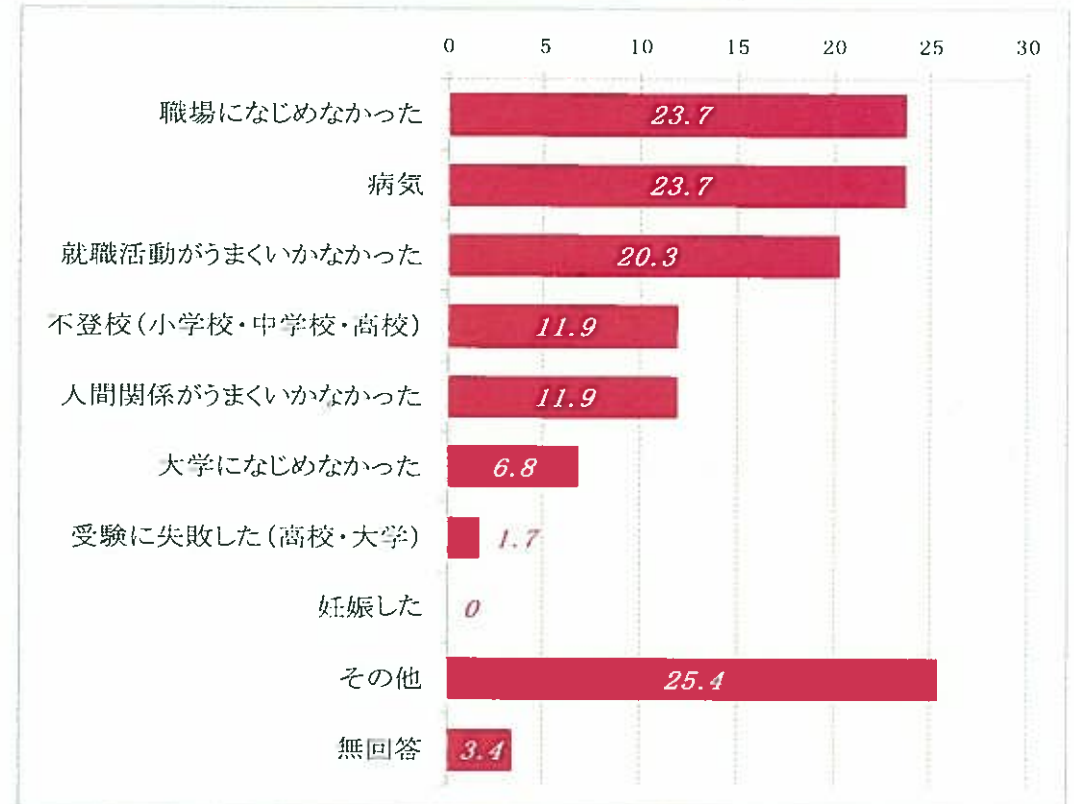
(Q：現在の状態になったのは、あなたが**何歳の頃**ですか。)



- 「14歳以下」(8.5%)及び「15~19歳」(25.4%)を合わせると33.9%となり、3割強の者が10代のうちにひきこもりの状態になっている。
- 一方、「30~34歳」(18.6%)及び「35~39歳」(5.1%)を合わせると30代でひきこもり始めた者も23.7%いることが明らかとなった。

【ひきこもり群 59 人に対して】

(Q：現在の状態になった**きっかけは何**ですか。(複数回答))



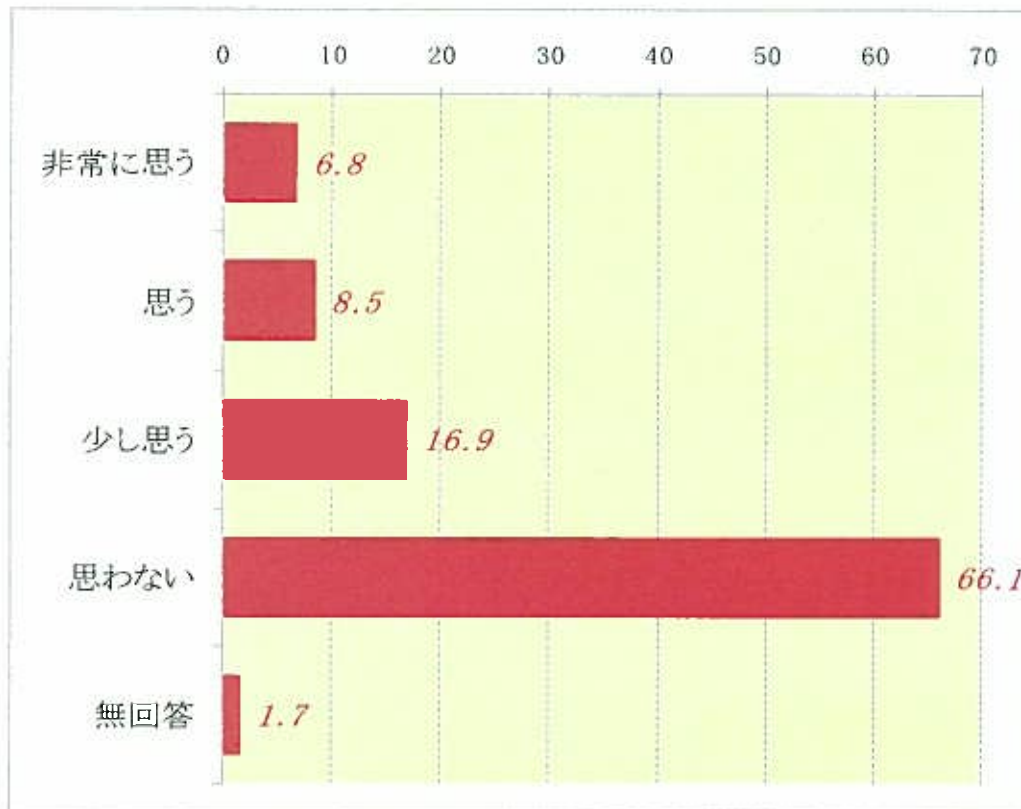
- 現在の状態になったきっかけは、「職場になじめなかった」(23.7%)と「就職活動がうまくいかなかった」(20.3%)を合わせると44.0%となり、仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多い。
- 「不登校(小学校・中学校・高校)」(11.9%)や「大学になじめなかった」(6.8%)は、合計しても18.7%にとどまっている。

6 ひきこもりの状態についての相談希望・機関

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

【ひきこもり群 59 人に対して】

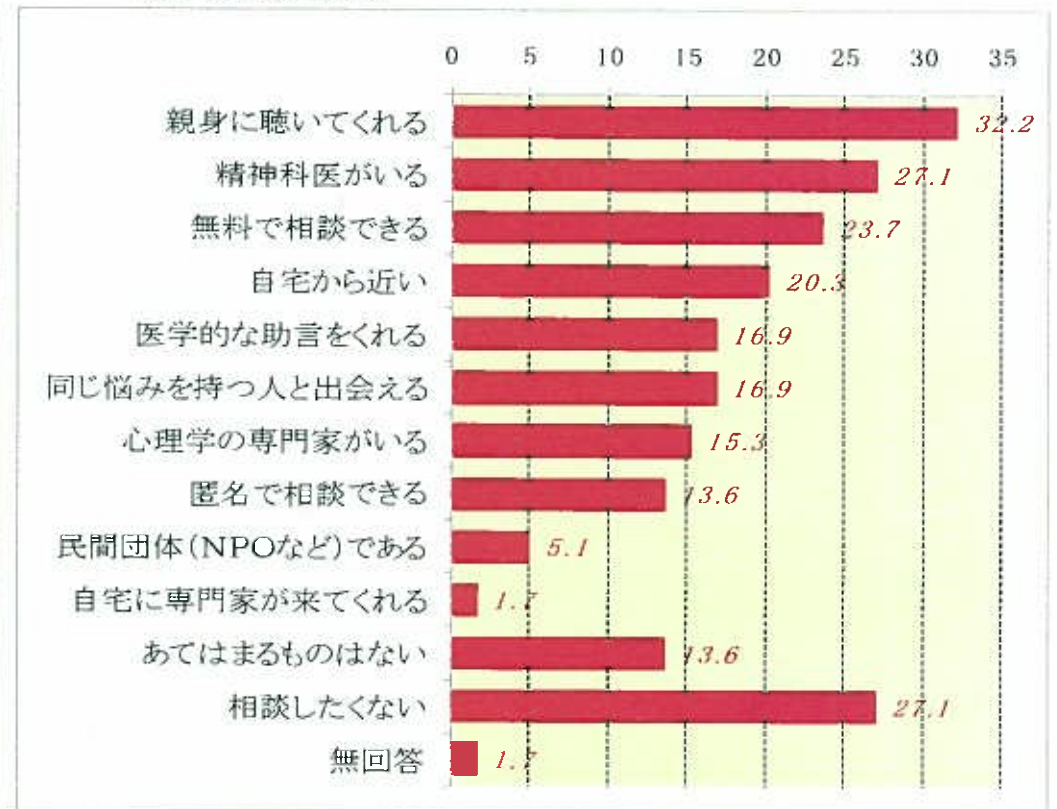
（Q：現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。）



- 現在の状態について、関係機関に相談したいか聞いたところ、「思わない」を選択した者が 66.1%と最も多く、ひきこもり群では関係機関への相談を避ける傾向がある。

【ひきこもり群 59 人に対して】

（Q：現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか（複数回答））

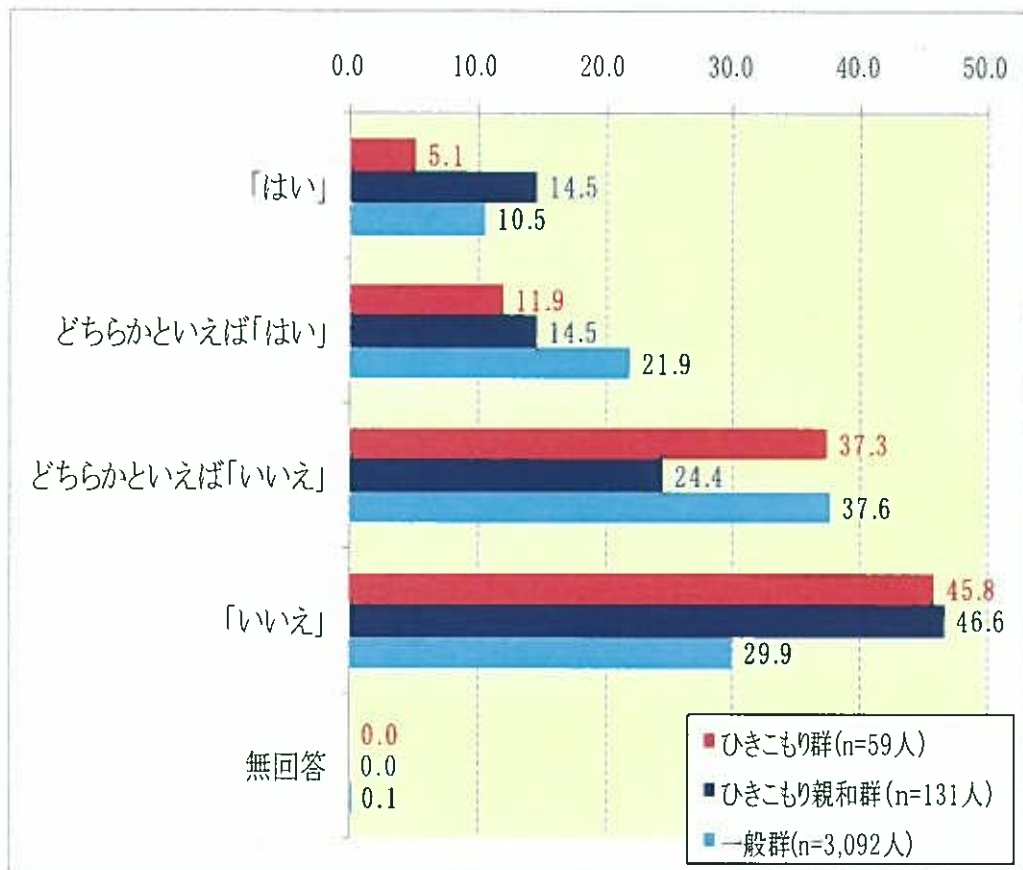


- ひきこもり群の者は、自分の話を「親身に聴いてくれる」相談機関を最も求めている。(32.2%)
- その一方で、「相談したくない」も 27.1%と多く、相談機関の条件に関わらず相談を避ける者も存在する。

7 自分自身について（才能・会話）

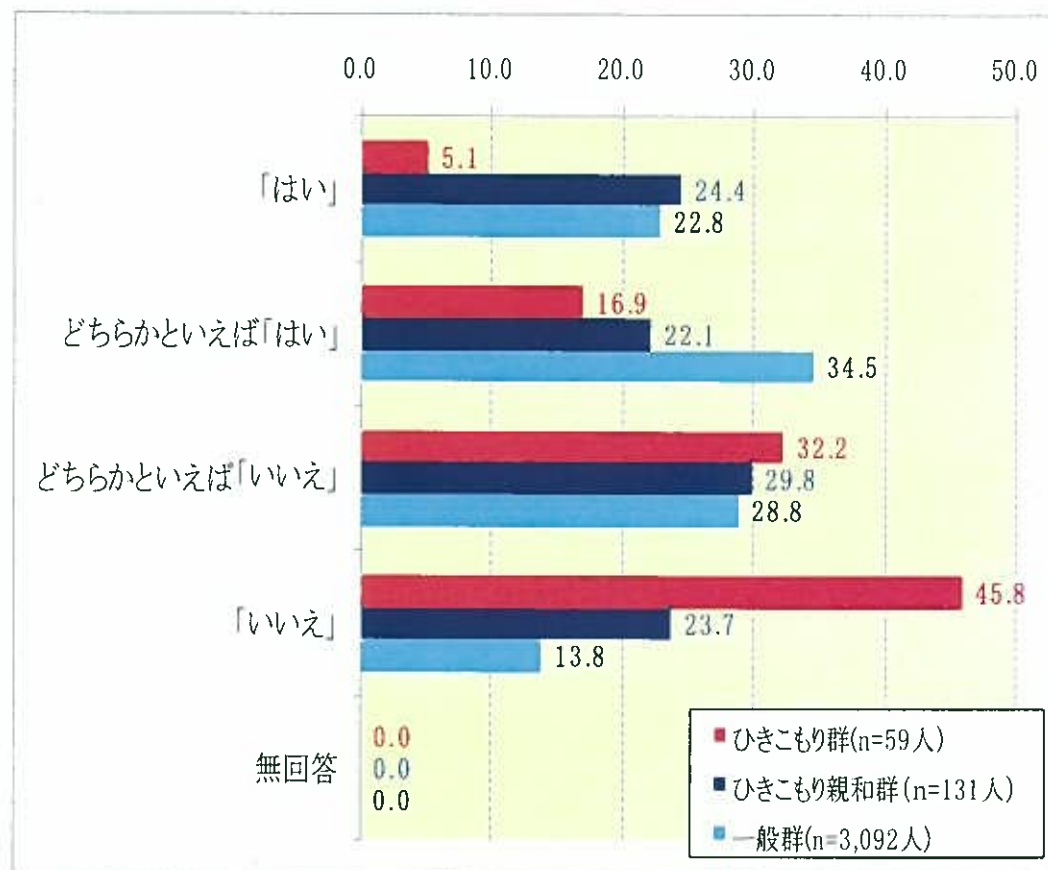
出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：私には持って生まれた**すばらしい才能がある。**）



- ひきこもり群は、一般群と比べて自分の持って生まれた素質についての自信が低い傾向がある。

（Q：初対面の人と**すぐに会話できる自信がある。**）

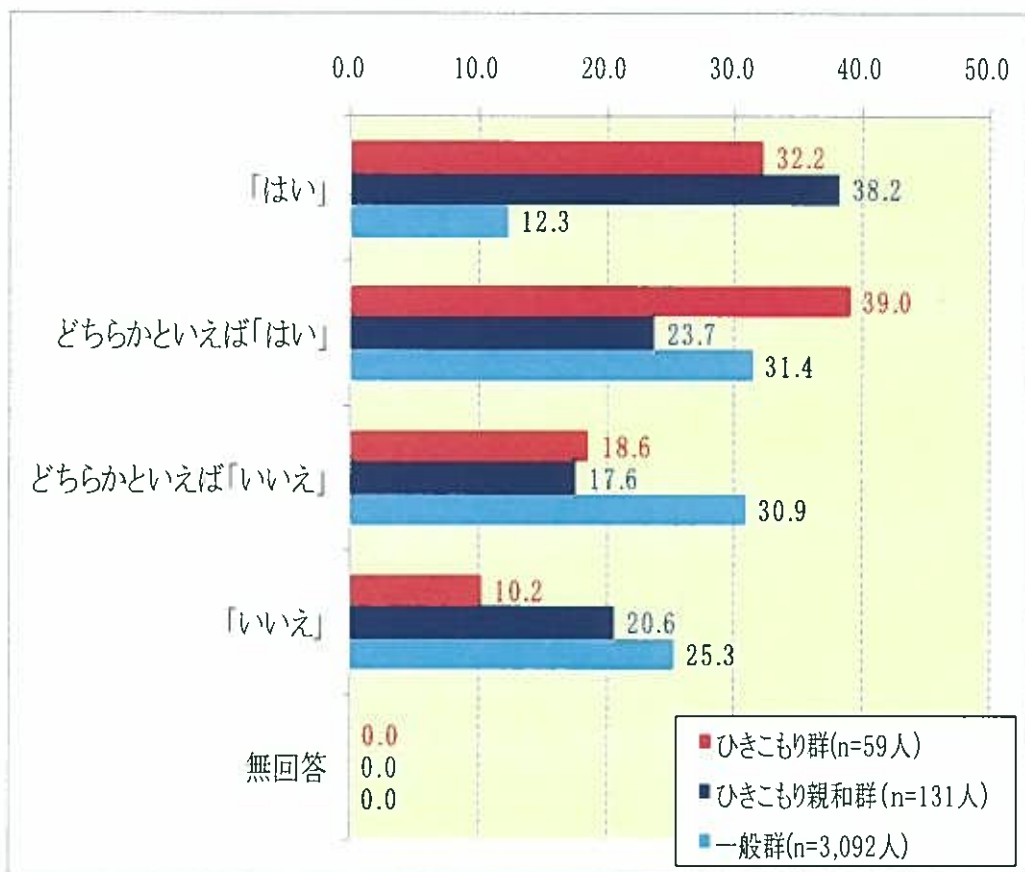


- ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、初対面の人との関わり方に自信がない傾向がある。

8 自分自身について（感情・生活の干渉）

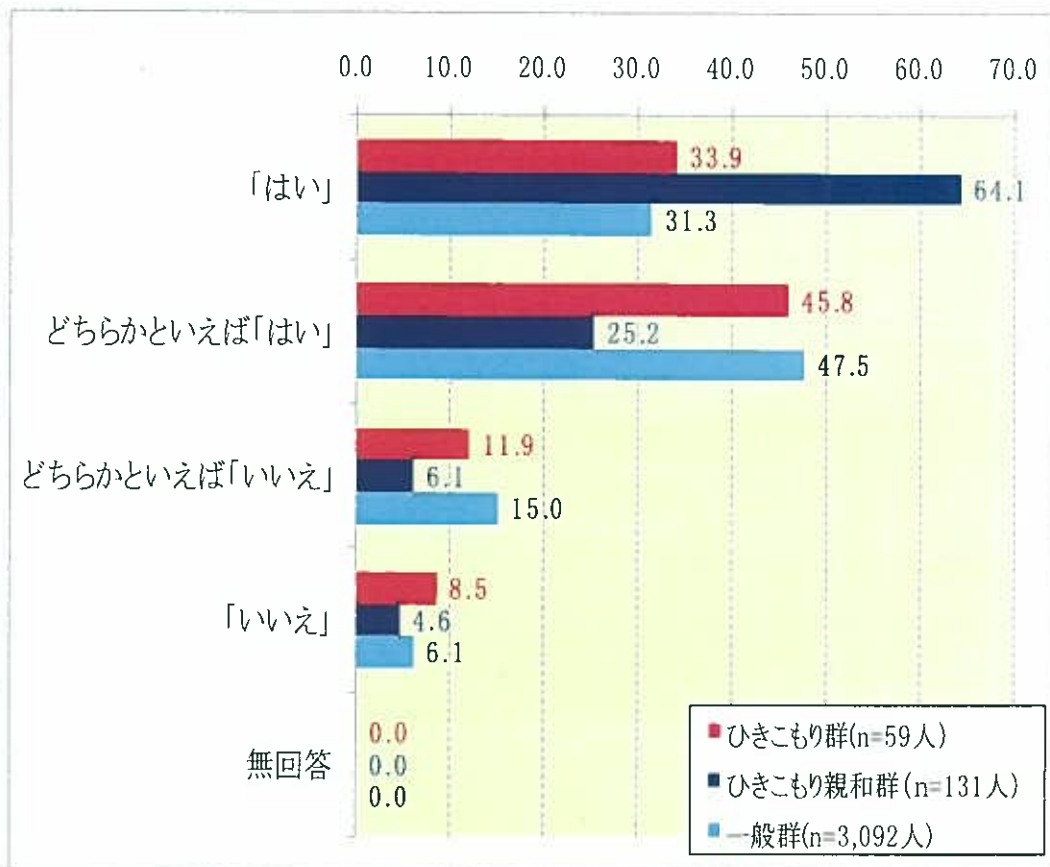
出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：自分の感情を表に出すのが苦手だ。）



- ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比べて、自己表現が苦手であると感じている。

（Q：自分の生活のことで人から干渉されたくない。）

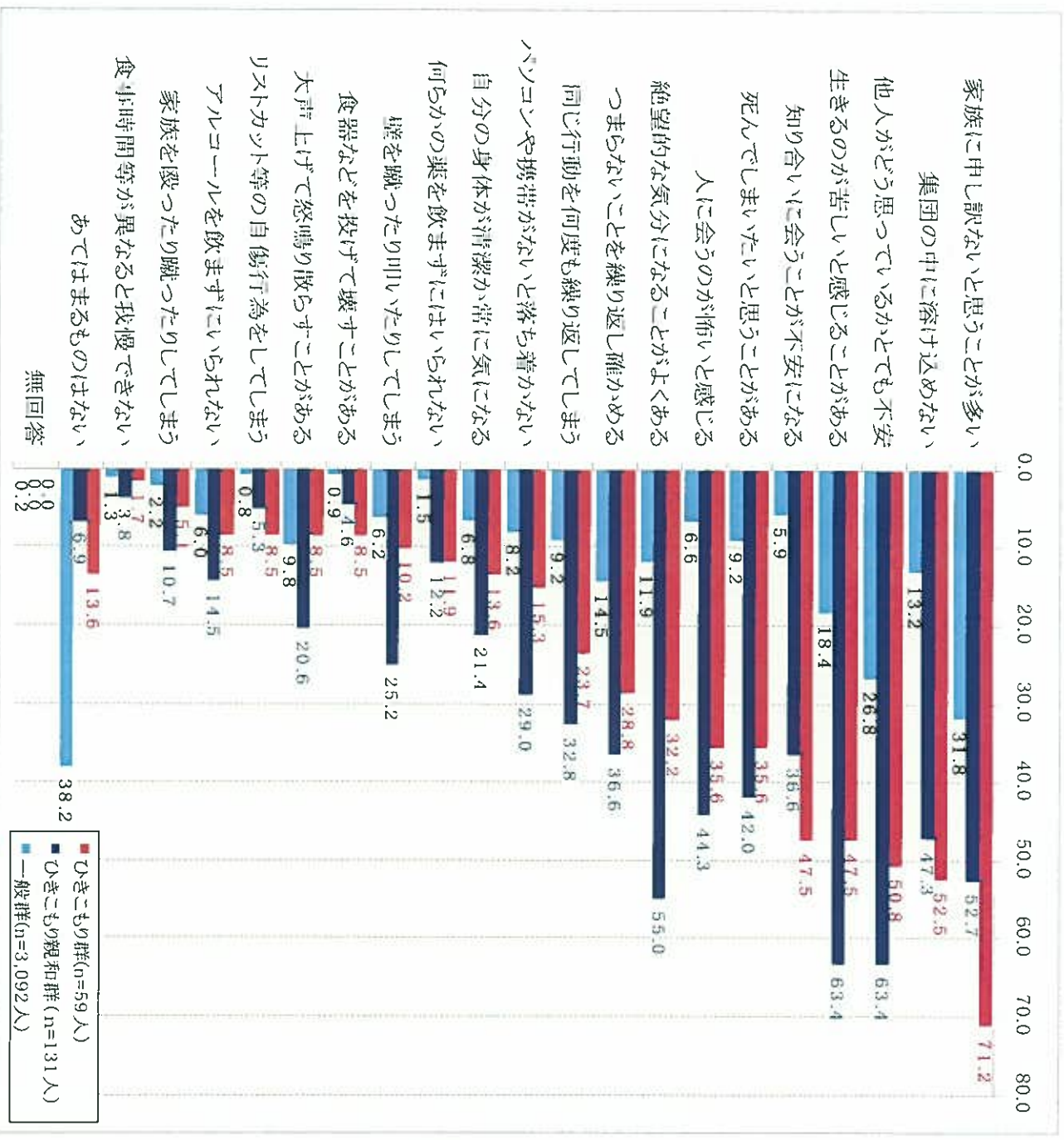


- ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群と比べて、自分の生活の仕方に他者が干渉することを嫌う傾向がある。

9 不安要素について

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：不安要素についてあてはまること（複数回答））

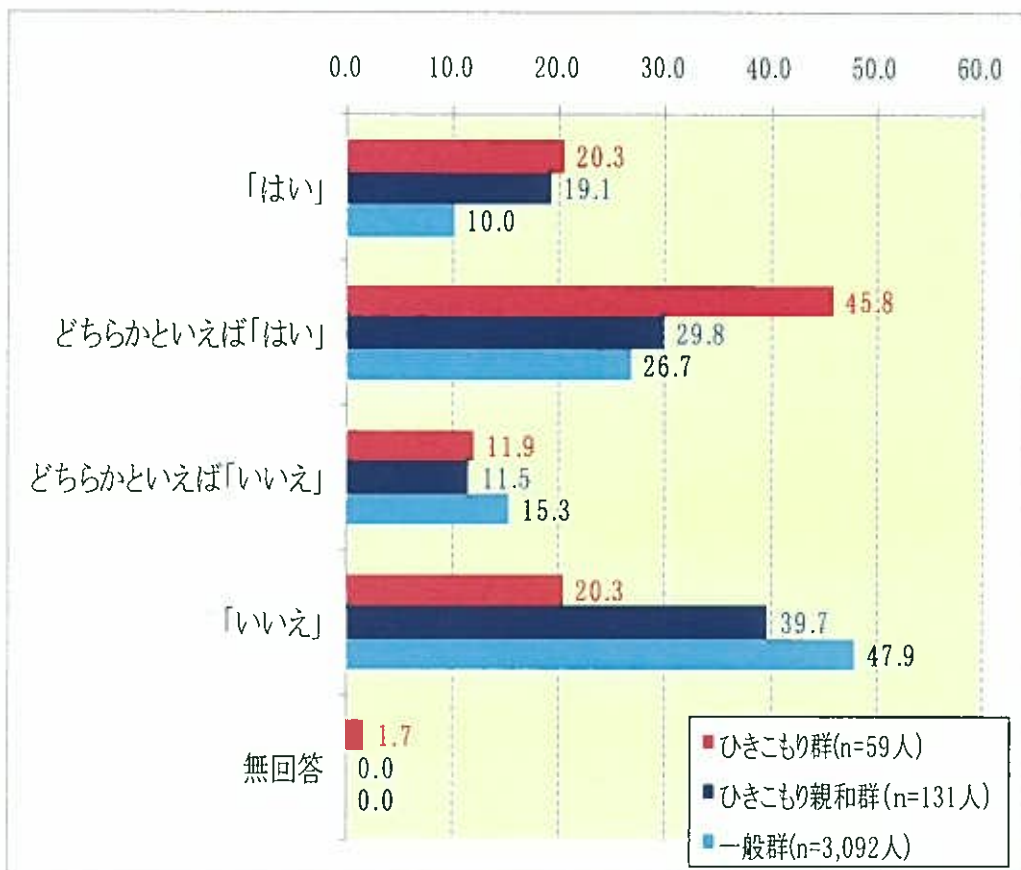


- ひきこもり群では、「家族に申し訳ないと思うことが多い」をあげた者が71.2%と最も多く、以下「集団の中に溶け込めない」(52.5%)、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(50.8%)、「生きるのが苦しいと感じることがある」「知り合いに会うことを考えると不安になる」(47.5%)となっている。
- ひきこもり親和群では、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(63.9%)、「生きるのが苦しいと感じることがある」(63.4%)をあげる者が多く、次いで「絶望的な気分になることがよくある」(55.0%)、「家族に申し訳ないと思うことが多い」(51.6%)となっている。
- 一般群では「あてはまるものはない」が最も多く(38.2%)、『ひきこもり親和群』と比べ、不安なことをあげる者が少なくなっている。

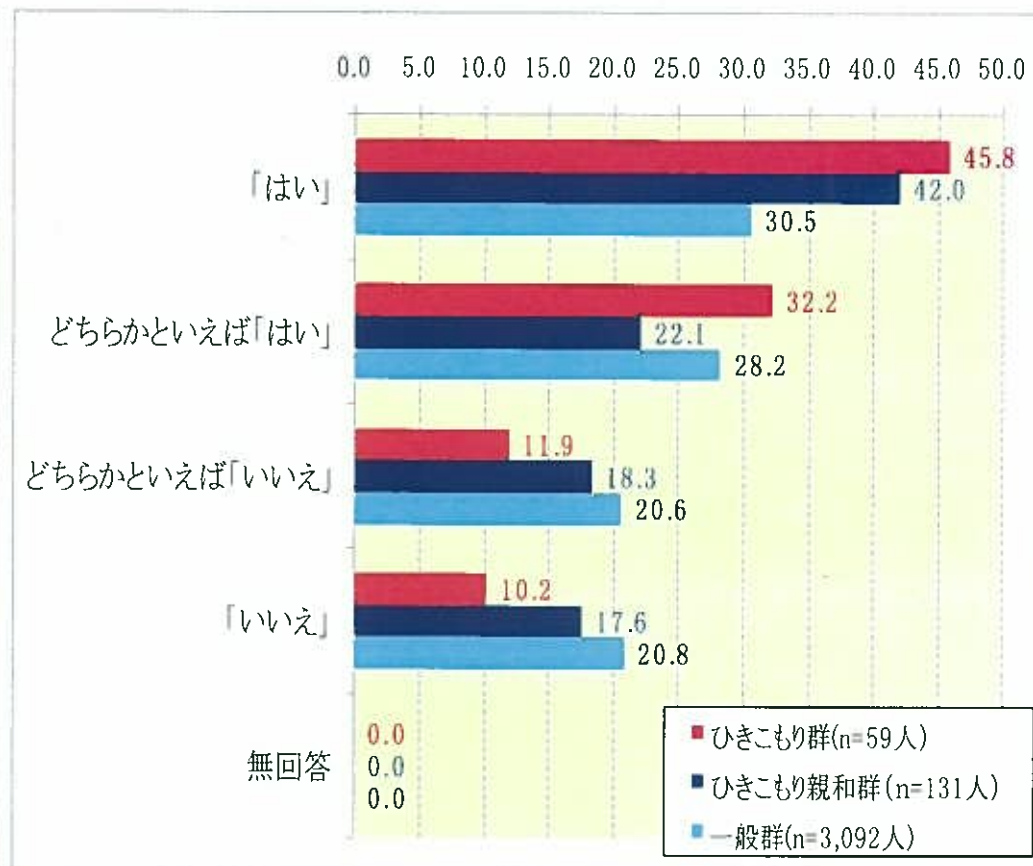
10 ふだん的生活態度（身の世話・就寝時間）

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：身の回りのことは親にしてもらっている。）



（Q：深夜まで起きていることが多い。）



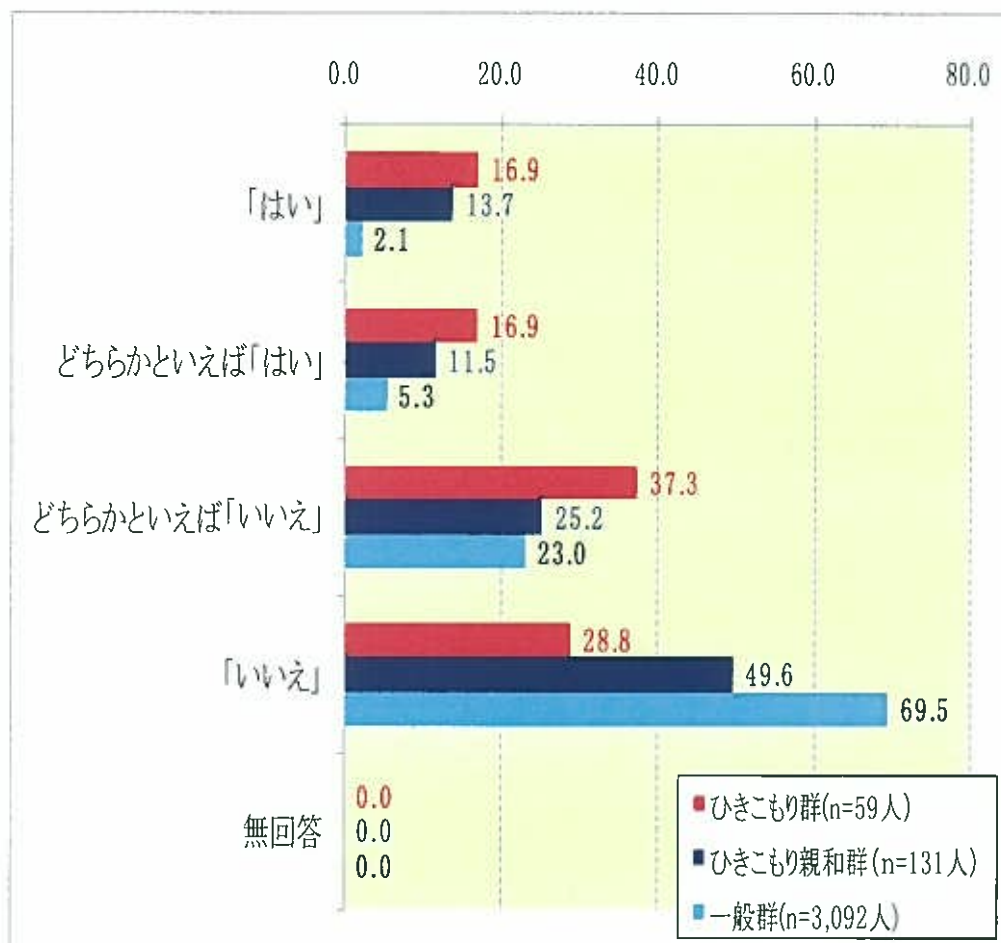
○ ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較して、身の回りのことを親に頼る傾向が高い。

○ ひきこもり群は、一般群に比べて、深夜まで起きていることが多い。

11 父だんの生活態度（信頼できる人）

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：過去の知り合いや縁者に**信頼できる人はいない。**）

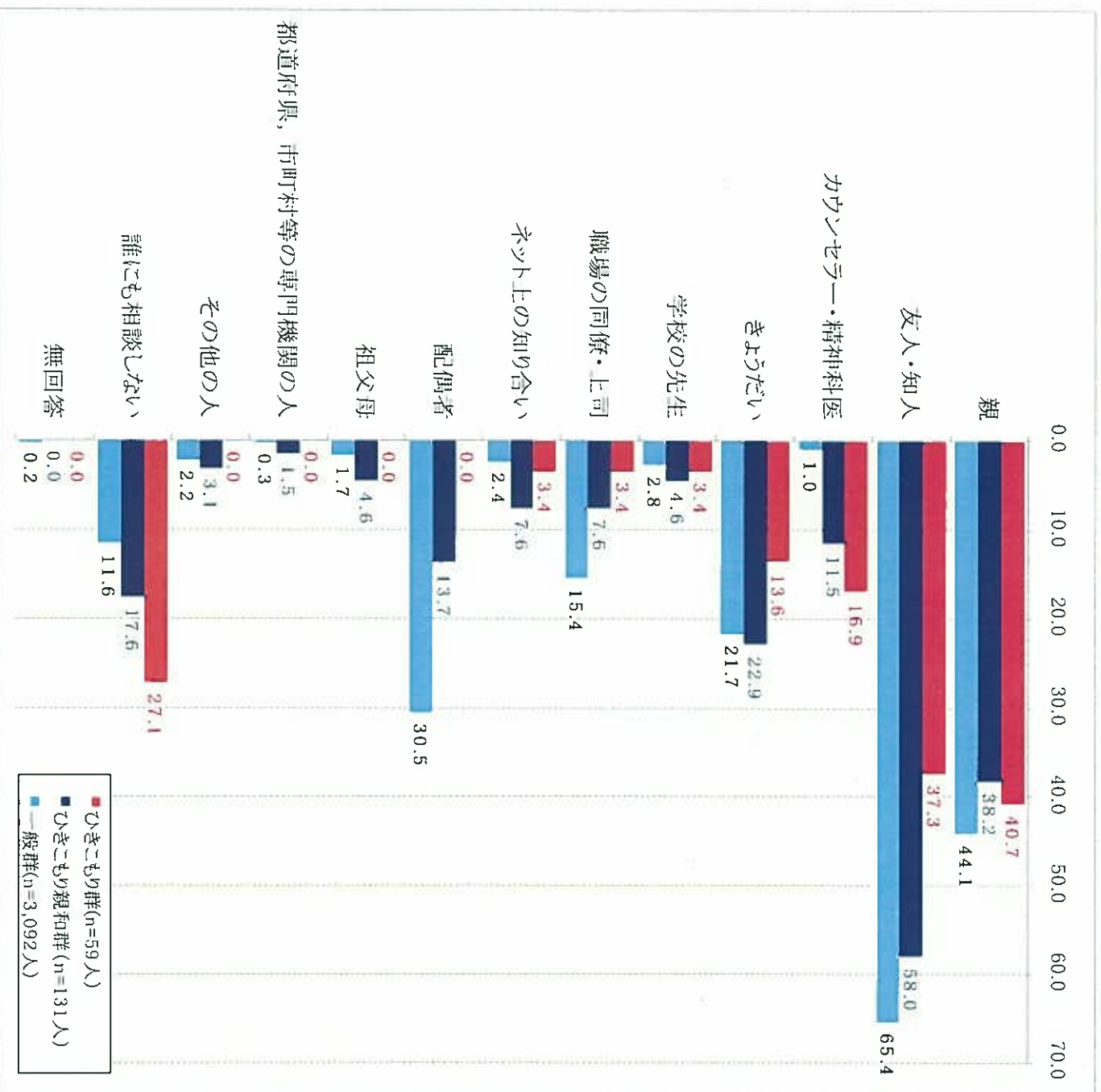


- ひきこもり群は、知り合いを信頼できないと感じる傾向が3群の中で最も高く、次いでひきこもり親和群が高くなっている。

12 悩み事の相談相手

出典：内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」H22.7

（Q：ふだん悩み事を誰に相談しますか。（複数回答））



- ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、「友人・知人」(37.3%)が少なく、「誰にも相談しない」(27.1%)が多い。
- ひきこもり親和群は、他の2群よりも「ネット上の知り合い」(7.6%)や「祖父母」(4.6%)が多い。
- ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに、一般群よりも「配偶者」(ひきこもり群 0.0%、ひきこもり親和群 13.7%)、「職場の同僚・上司」(ひきこもり群 3.4%、ひきこもり親和群 7.6%)が少なく、「カウンセラー・精神科医」(ひきこもり群 16.9%、ひきこもり親和群 11.5%)を相談相手とすることが多い。